

# 事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	河川等維持管理事業			事業コード	0830
所属コード	089000	課等名	河川課	係名	河川係
課長名	高橋 寿	担当者名	佐々木 駿	内線番号	8115
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

## 1 事務事業の基本情報

### (1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	安全な暮らし	コード	2
	施策	自然災害対策の推進	コード	1
	基本事業	危険箇所の解消	コード	1
予算費目名	一般会計 8 款 3 項 2 目 河川等維持管理事業			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 23 年度	
根拠法令等	盛岡市水路条例			

### (2) 事務事業の概要

小規模河川・水路の整備工事

### (3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

市街地の浸水防除を図るため、公共下水道事業（雨水）として実施してきたが、当該事業だけでは困難なことから、これを補完するために昭和 50 年から実施した。

### (4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

財政状況が厳しく、整備箇所の制約から、要望への対応が懸念される。

## 2 事務事業の実施状況 (Do)

### (1) 対象（誰が、何が対象か）

河川及び水路の氾濫により被害を受ける市民、市が所有・管理する河川及び水路、自然災害。

### (2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21 年度 実績	22 年度 実績	23 年度 計画	23 年度 実績	24 年度 見込み
A 水路延長距離	m	5,000	4,000	4,000	4,000	4,000
B 対象箇所数	箇所	50	40	40	40	40
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

降雨時における浸水防止と生活環境の改善を図るため、側溝、板柵、防護柵の整備工事を次のとおり実施。

- ・ 年度工事計画に基づき工事計画を作成
- ・ 工事監督
- ・ 完成検査及び引渡し
- ・ 支払い等の事務処理

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績	26年度目標値
A 整備延長距離	m	1,170	737	550	178	
B 整備箇所数	箇所	30	26	14	12	
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

危険箇所の対策工事を行い、被害を防止、軽減する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績	26年度目標値
A 整備率: 当年度整備率(実施した水路延長÷年度計画した水路延長距離)	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	138	93	100	32	
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	20,000	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	35,408	30,086	8,959	13,014
	⑤その他( )	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	35,408	30,086	28,959	13,014
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	3,200	3,200	3,200	3,200
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	12,800	12,800	12,800	12,800

計	トータルコスト A+B	千円	48,208	42,886	41,759	25,814
備考						

### 3 事務事業の評価 (See) . . . . .

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

自然災害から市民を守り、安全な暮らしが図られることから、施策体系と整合性がある。

② 市の関与の妥当性

法定事務であることから、妥当である。

③ 対象の妥当性

法定事務であることから、現状の対象で妥当である。

④ 廃止・休止の影響

法定事務であることから影響がある。市民生活の安全確保が図られない。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

工事費の歳出は、定められた基準書に基づき算出していることから向上余地はない。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

浸水防止と生活環境の改善を図ることにより市民全体が受益者となることから適正である。

(4) 効率性評価

損壊箇所等の早期発見に努めることで事業費の削減余地があるが、調査、検討、工事発注と最小限の事務を行っていることから人件費の削減余地はない。

### 4 事務事業の改革案 (Plan) . . . . .

(1) 改革改善の方向性

こまめなパトロールの実施や、早期の情報入手に努める。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

状況の早期把握を積極的に行い効率的な事業執行に努めているが、安全・安心なまちづくりのために相応の予算配分が必要である。

### 5 課長意見 . . . . .

(1) 今後の方向性

- 現状維持 (従来どおりで特に改革改善をしない)
- 改革改善を行う (事業の統廃合・連携を含む)

□ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

財政状況が厳しく整備箇所が制約される状況にあるが、パトロール頻度を上げて損壊箇所の早期発見に努め、浸水等の被害の軽減を図ることにより事業費の増大を抑え、市民生活の安全を確保していく。